

『紅葉を訪ねて： 都立庭園』

都立庭園散策報告 (2019年12月01日(日))

昨年には一人で出掛けたが、今年はビスターリの会として庭園巡りを企画した。初め 23 日(土)に決めていたが天候不順で断念した。天候の具合を予想して、再度皆様に声を掛けたら、女性お二人荻野さん、柳沢さんに参加いただけることになった。強力な“晴れ女”である。今回は「お得」が 2 点あり、「東京メトロ一日乗車券：¥600」、「65 歳以上の方優待割引入園(半額)」である。

9 時 15 分前には、皆さん地下鉄駒込駅改札口に集り、すぐ「六義園：染井門」へ向かう。開園は 9 時で門前には既に 20 名くらいの方が行列していた。さて、入園券を購入する段でお一人、年齢の証明をお忘れとか。しかし、流石“顔パス”を利かせて“割引料金”で入園された。

「六義園」は柳沢吉保が作った“回遊式築山泉水”で中央の池の周りに茶屋とか亭が配置されている。池の中の北側に邪魔にならないような位置の島には約 5~6m 高の「藤代峠」という築山もあった。イロハモミジ、カエデ、ハゼの他にナナカマド、ドウダンツツジの紅葉が綺麗だ。特に鬼灯に似た赤いクチナシの実が印象的だった。モミジには既に赤茶けて終りに近い葉もあるが、まだ一部緑色の葉も残っていた。「松戸歩こう会」という緑色の小旗を持ったグループがいたが、総勢 80 名とか。これまではいささか声高の韓国人が居らず、中国人／台湾人と白人が多い。特にガイドに連れられた白人の団体が多かった。

駒込駅から後樂園駅へ行き、10 時に「小石川後樂園」へ向う。広い庭園は水戸光圀の作でやはり“回遊式築山泉水”である。国の“特別史跡”と“特別名勝”の重複指定を受けている。明の朱舜水の意見で中国名のついた橋、亭などがある。この紅葉は最も見応えがあった。松の木も多く雪吊りや害虫集めの藁：“腰巻”も巻かれていた。

11 時に後樂園駅に向かい、大手町駅経由で清澄白河駅へ行く。11 時 45 分に「清澄庭園」へ着いた。三菱財閥の岩崎弥太郎が、一族の集りや迎賓館として使用された。伊豆、伊予、紀州、讃岐、生駒、備中、佐渡などから“名石”を集めた庭で、“大磯渡り”など、池の縁に大石を配して歩けるようになっている。昼時になり、「中の島」のベンチで池、対岸を眺めながら昼食を摂った。

13 時に出て三越駅を経由して、銀座線で新橋駅に行き、13 時 50 分に「浜離宮」に着いた。

「浜離宮」には松の木が多い。特に「三百年の松」は太い枝が広く張り出しており立派だ。今年は少し黄ばんだ葉が見られたのは残念である。松は自動車の排ガスに弱いのだが、傷んだ木はあまり見かけない。潮風が排ガスを散らしてくれるからだろうか。松の木には雪吊りと害虫除けの藁が巻かれているが、昨年と比べると吊られた木は少ないようであった。

14 時 30 分「浜離宮」を出て、新橋駅に戻りそれぞれ地下鉄車内で流れ解散とした。

以上 陽田



「六義園」の雪吊り



「小石川後樂園」



「小石川後樂園」



「小石川後樂園」



「清澄庭園」の「磯渡り」



「浜離宮」の「三百年松」



「浜離宮」で出逢った“笑顔”